

十年後の守谷と私

高野小、四年 祖父江 迪瑠

今の守谷で一番良いなあと思うのは、自然にめぐまれ、緑がたくさんあるところです。

ぼくは、信号が一つもなく、車もほとんど通らない農道を歩いて小学校へ通っています。この農道の西側に田んぼがあります。毎年五月の連休のころ水がはれると、

「ゲコ、ゲコ、ゲコ！ゲコ！」

と、いっせいにカエルたちの大合唱が聞こえます。

ます。

「今まで、どこにかくれていたのだろう」と思うほどのはく力です。白サギもここからともなく飛んできて、カエルの声にあわせておどろいてるようで、とてもきれいです。ワエあまの用水路には、メダカやどじょう、タニシ、ザリガニもいます。一ぼくがついてきたどじょうは、はじめはニセンチぐらいで小さかったけれど、今ではニセンチにもなり、大好きなかんそうイト三

ミズもパクパクとおいしそうに食べ、お気に入りの水草のハンモックで、気持ちよさそうに寝ています。

小学校の校庭には山があり、休み時間にはクラスのみんなで、かくれんぼやおにごっこをして遊びます。とても楽しい場所なので丸中にな。てしまい、チャイムの音に気がつかず、先生におこられてしま。た苦い経験もあります。

カブトムシやクワガタもいます。つかま

たクワガタは大事なのでランドセルに入れて持ち帰たり、

「ランドセルに生き物を入れてはいけません！」

とお母さんに注意された事もありました。

「こんな自然あふれるところで、生活できるなんて、とても幸せな事です！」

いろいろな人に言われますが、今のぼくには、正直よくわかりません。

十年後ぼくは二十才になります。大学が

なあと思ぞうするとワワワワします。

まだ、どんな勉強をしたいか、具体的には
考えていません。今、ぼくがあたりまえと考
えているこのかんきょうも、いつまでも変わ
らずに残しておきたいので、残しておくには
どうしたら良いのか。そのような勉強をし
たいです。今のうちに、毎日野山をかけ回っ
ているかも知れません。

夢に向かってがんばります。